

平成26年度 東京都内湾水生生物調査 8月底生生物調査 速報

東京都内湾水生生物調査

地点名	St.5	調査年月日	平成26年8月27日	9:55 ~ 10:30
-----	------	-------	------------	--------------

<調査地点>



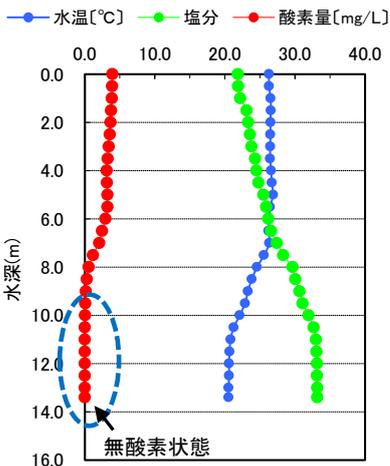
<底質状況、底生生物出現状況>



調査地点は、船の科学館の正面。調査時、赤潮は確認されなかった。



調査地点は航路上にあり、水深は14m程度であった。水深10m以深は無酸素状態であった。



14m下の海底から、底泥が詰まった採泥器を手で引き上げるのはかなりの重労働。



底質の性状は軟らかい泥であった。海底面は無酸素状態であったため、泥の色は真っ黒であった。



臭気は、硫化物臭(卵の腐った臭い)が強烈で、調査員もビックリ！白い容器もすぐに真っ黒になった。



底泥をフルイがけすると、貝殻がわずかに残る程度であった。生きている底生生物はいないようである。



貝殻は、半透明でもろいものばかり。



シズクガイ(貝殻)  
東京湾では代表的な汚濁指標種。酸素が少ない環境でも生息できるが、無酸素状態が続くと生きていけない。



チヨノハナガイ(貝殻)  
泥分率の高い汚濁が進んだ水域に多い二枚貝。シズクガイと同様、無酸素状態が続くと生きていけない。



コウロエンカワバリガイ(貝殻)  
内湾から河口の潮間帯に生息する付着性の二枚貝で、外来種である。付近の航路ブイに付着していたものが落下したものと推定される。